

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

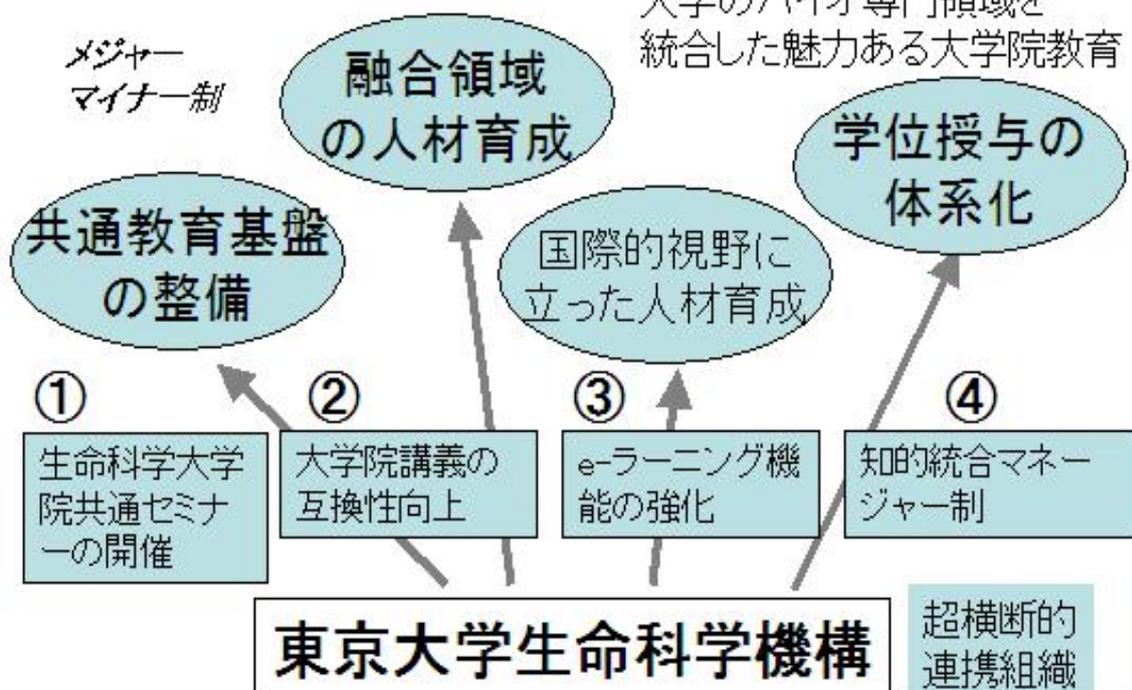
機 関 名	東京大学	整理番号	b012
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	超横断的バイオ人材育成プログラム		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 基礎生物学、生物科学、農芸化学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (形態・構造、遺伝・ゲノム動態、分子生物学、細胞生物学、応用生物化学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 <small>([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)</small>	(主たる研究科・専攻名) 新領域創成科学研究科・先端生命科学専攻[博士前期課程] 新領域創成科学研究科・先端生命科学専攻[博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 磯部 雅彦	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>東京大学は、世界のリーディング・ユニヴァーシティとして、大学院教育において「多様な専門分野に展開する研究科、附置研究所等を有する総合大学の特性を活かし、研究者および高度専門職業人の養成のために広範な高度専門教育システムを実現する」(東京大学憲章)ことを使命とし、中期目標・中期計画においては、「未踏の領域に果敢に挑戦する開拓者精神に富んだ国際的に活躍できる研究者および社会の先頭に立つ人材の養成」を大学院教育の目標に掲げている。東京大学は、こうした観点から、今回の「魅力ある大学院教育」イニシアティブを、①新しい知の統合や学際的学融合的な新分野の創成とその大学院教育への還元、②研究の高度化と高度職業人養成、社会的ニーズに応じた高度の実践力をもった人材養成との結合、③研究と教育の国際化のいっそうの促進、④大学院教育における学生の能動性のいっそうの発揮、などの努力に飛躍をもたらす機会と位置づけている。本プログラムの実施をサポートする全学的施策を講ずる他、2年間のプログラム終了後も、当該研究科・専攻の自主的な努力に加え、全学的なレビューを経て大学としても資源を投入するなどの努力を集中して継続することをめざす。</p>			

機 関 名	東京大学	整理番号	b012
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>新領域創成科学研究科は、東京大学の既存部局の全面的な協力のもとに、柏キャンパスに新設された修士・博士課程のみの独立研究科である。本研究科を構成する基盤科学、先端生命科学、環境学の各研究系に共通する特徴は、既存の個別学問分野から派生する未開拓の領域を教育・研究の対象とすることである。このため、『学融合』を標榜し、多様なバックグラウンドを持つ教官によって教育・研究システムが構築され、様々な学問分野で基礎教育を修了した学部卒業生を迎え入れ、複数の視点を持った人材を養成している。領域横断的な研究課題をカバーすることを目指しており、本学総長室総括委員会のもとに発足した分野横断的組織である『東京大学生命科学機構』では中心的な役割を果たしている。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>東京大学では、生命科学の分野に留まらず、既に幾つかのCOEプログラムの試みの中で、複数の専攻が共通のセミナーの開催を実施し、問題意識の共通化と人材育成の両面で著しい効果があることを実証している。本教育プログラムでは、共通セミナーと大学院教育の連携を全学的規模に拡充することで、学際分野における独創性を追及する。また、豊かな学識を養うための複合的な履修取組であるメジャーマイナー制の導入を目指すことで、これまで何かと手薄だった大学院でのコースワークも充実できよう。本プログラムは以下の4つの事業からなる。〈事業1と2〉に関しては東京大学生命科学機構が企画・立案し、〈事業3と4〉に関しては新領域創成科学研究科が中心となって施行する。東京大学の既存の教育の枠組みを尊重しながらも、新たに、共通した生命科学の教育基盤を整備し、横断的な組織によって国際的にも広く通用する創造性豊かな若手の人材育成を図るためには、新設の研究科がイニシアティブを取る必要があろう。</p> <p>〈事業1〉 生命科学大学院共通セミナーの開催:国内外の著名な研究者を講師として招き大学院共通セミナーを開講する。年10～20回開催し、全学からの受講を可能にする。</p> <p>〈事業2〉 生命科学大学院講義の互換性向上:共通性が高く、魅力溢れる講義を全学に発信し、文系の学生にも開講することで豊かな知的ネットワークを構築し、メジャーマイナー制の実現を図る。</p> <p>〈事業3〉 e-ラーニング機能の強化:3つのキャンパスをつなぐ遠隔講義システムの機能を強化し、本学の三極構造をシステムの面からも磐石にする。</p> <p>〈事業4〉 知的統合マネージャー制の導入:上記3事業ならびに東京大学における生命科学の知的統合を図るため、マネージャーを選任し、演者やテーマの有機的設定や企画などの機能を強化する。</p>			

6. 履修プロセスの概念図

超横断的バイオ人材育成プログラム

大学のバイオ専門領域を
統合した魅力ある大学院教育



- ◎大学院研究科
 - 人文社会系研究科(心理学専修課程)
 - 総合文化研究科(広域科学専攻)
 - 理学系研究科(生物学専攻)
 - 工学系研究科(生物化学専攻)
 - 農学生命科学研究科(生産・環境生物学専攻、
応用生命化学専攻)
 - 農学系研究科(化学生産工学専攻)
 - 工学系研究科(化学生産工学専攻)
 - 農学系研究科(生産・環境生物学専攻、
応用生命化学専攻)
 - 森林科学専攻
 - 水圏生物学専攻
 - 農業・資源経済学専攻
 - 生物・環境工学専攻
 - 生物材料科学専攻
 - 応用生命工学専攻
 - 農学国際専攻
 - 獣医学専攻
 - 生圏システム学専攻
- ◎研究所
 - 医学系研究科(分子細胞生物学専攻、
機能生物学専攻、
病態・病理学専攻、
生体物理医学専攻、
脳神経医学専攻、
社会医学専攻、
内科学専攻、
外科学専攻、
生殖・発達・加齢医学専攻、
健康科学・看護学専攻、
国際保健学専攻)
 - 薬学系研究科(分子薬学専攻、
機能薬学専攻、
国際保健学専攻)
 - 新領域創成科学研究科(先端生命科学専攻、
生命薬学専攻、
メテイルグノム専攻、
情報生命科学専攻)
 - ◎研究所
 - 医科学研究所、分子細胞生物学研究所、海洋研究所、
先端科学技術研究センター

個々のバイオ専門領域を重視した人材育成

機 関 名	東京大学	整理番号	b012
<p data-bbox="165 199 588 230">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 470">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 519">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 660">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 853">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 902">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 967 635 999">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 1014 1428 1332" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 1014 1428 1238">・専攻設立以来の努力と実績を踏まえて、専攻の目的である、理、農、工、医などの「学の融合」による領域横断的な人材養成に向けた具体的な教育課程が整備されている。生命科学大学院共通セミナーなど、いくつかの新鮮で実効性が期待されるプログラムが用意されている。また、修士論文中間発表会、学位論文予備審査会に連動した教育研究指導委員会の設置等は、大学院教育の実質化の面で評価できる。 <li data-bbox="172 1254 1428 1332">・知的統合マネージャー制度は、ユニークな試みであるが、大学全体での位置付けをより明確にするなど、運営面での工夫が望まれる。 			